



## 第33回丹沢音楽祭の指揮者・三ツ橋敬子さん

インタビュー

2009年 Newsweek Japan誌で「世界が尊敬する日本人100人」に選出

——世界的に活躍されているマエストロですが、ここ秦野までお越しただけに、心より感謝申し上げます。今回、丹沢音楽祭の指揮をお引受けいただけましたこと、お教えください。

日本中、世界中の様々な場所で、一人でも多くの方にクラシック音楽や生のオーケストラを楽しんでいただける機会を持っていたら……というの私の夢の一つです。今回、秦野の皆さまが大切にされている音楽祭に一緒にできることも光栄に思います。

——今回の丹沢音楽祭のメイン曲はベートーヴェン「第九」です。日本人になじみの深い「第九」ですが、聴きどころを教えてください。

この交響曲は、人類に残された宝物のような作品だと思っています。まず、第4楽章に交響曲のジャンルに初めて人間の声が入られたという画期的なアイデア。その歌詞には、個人的な情愛や宗教的な典拠にまつわるものではなく、「全ての人類はみな兄弟になる」というとても壮大なメッセージが込められています。これはベートーヴェン自身が強く願っていたことなのではない

か、と私は考えていて、演奏するときは言葉を大切にすることをいつも心がけています。多くの不安や困難が世の中を取り巻いている現代ですが、今だからこそこの歌詞を噛み締めながら「第九」を聴く意味があるかもしれません。

オーケストラのみで演奏される第1楽章から第3楽章も素晴らしい傑作です。ベートーヴェンの得意とした作曲技法の一つに、モチーフ（小さな音のまとまり。例えば「運命」の♭ジャジャジャのよう）を駆使して楽曲を構成するという方法があります。「第九」の第1楽章、第2楽章はこの技法の集大成と言っても良いくらい

です。また、第3楽章の極上の美しさはベートーヴェンの内面や人間性に触れるような感覚もあつてとても魅力的だと思います。

——音楽家、指揮者として、日ごろ心がけておられること、今後の抱負を教えてください。

——今コロナ禍、紛争など世界をゆるがす情勢が続いていますが、音楽の持つ力について、お聞かせいただけますか。

音楽には、直接人の命を救う力はないかもしれませんが、音楽には、直接人の命を救う力はないかもしれませんが、音楽には、直接人の命を救う力はない……



クアーズテック秦野カルチャーホール（文化会館）に資料として残る第1回と2回のプログラム

「丹沢音楽祭」は、市民の情熱から発案された。第1回プログラムには主催の秦野市・同実行委員会・秦野市文化会館事業協会のほか、秦野市・伊勢原市・厚木市・愛川町・清川村の教育委員会や県央合唱連盟、秦野市音楽協会が後援に名を連ねている。音楽とともにもこよなく故郷「丹沢」を愛する音楽仲間が制作され、県立秦野戸

川公園の風の吊り橋付近に建立されている。様々な形を変え、市制施行30周年かつ文化会館開館5周年を迎えた第2回丹沢音楽祭では、前年の合唱とは趣向を変え管弦楽に。翌年の第3回はアマチュアだけの第1回・2回と異なり、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と指揮者に黒岩英臣氏を迎え、現在の形である市民合唱団公募の形式をとった。

第4回は丹沢野外彫刻展と吹奏楽フェスティバルに合わせた2部制となり、彫刻展ではオーブニングコンサートとして初の野外演奏を実施。第6

回も2部開催、第9回では半年にわたり5回（うち1回は雨天のため中止）開催、市制施行50周年の年となった第20回は記念事業のフィナーレを飾るなど、様々な形態で紡がれてきた。

世界的指揮者を迎え、第22回の東京混声合唱団秦野市特別公演では、当時最年少で同合唱団指揮者に就任し、現在世界的な指揮者として活躍する秦野出身の山田和樹氏が初出演した。その後もたびたび指揮やプロデュースを務め、地域の音楽文化振興だけでなく世界水準の質の高い演奏に触れられる機会にもなっている。

33回目となる今回も「第九」をメインに、2009年にNewsweek Japan誌で「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた2013年に第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞した指揮者・三ツ橋敬子氏と、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団が招致される。

が、たつた3発の銃弾で散ってしまふ。正義とは？法律とは？と思春期の多感な価値観はガラガラと崩れ、自分は何を一生かけてやるべきなのかと悩みました。その中でラビン氏と夫人と、音楽で心が通じたあの感覚がやはり忘れられず、仕事にしたいと決心することになったのです。

——最後に当日来館されるお客様へのメッセージをお願いします。

——この日の場所ではない一期一会の音楽の時間を、皆さまと過ごせますことを楽しみにしています。ベートーヴェンの壮大なメッセージを全身全霊で演奏しますので、どうぞ会場に足を運んで下さい！

## 丹沢音楽祭の歴史紐解く

市民らの情熱で始まり、紡ぐ

コロナ禍で延期となっていた「丹沢音楽祭」が

2月26日(日)、午後2時から文化会館大ホールで3年ぶりに開催される。市民の手で1984年から連続と続く音楽祭の歴史を紐解いた。

同音楽祭は「一人間性豊かな音楽仲間が制作され、県立秦野戸

川公園の風の吊り橋付近に建立されている。

様々な形を変え、市制施行30周年かつ文化会館開館5周年を迎えた第2回丹沢音楽祭では、前年の合唱とは趣向を変え管弦楽に。翌年の第3回はアマチュアだけの第1回・2回と異なり、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と指揮者に黒岩英臣氏を迎え、現在の形である市民合唱団公募の形式をとった。

第4回は丹沢野外彫刻展と吹奏楽フェスティバルに合わせた2部制となり、彫刻展ではオーブニングコンサートとして初の野外演奏を実施。第6

回も2部開催、第9回では半年にわたり5回（うち1回は雨天のため中止）開催、市制施行50周年の年となった第20回は記念事業のフィナーレを飾るなど、様々な形態で紡がれてきた。

世界的指揮者を迎え、第22回の東京混声合唱団秦野市特別公演では、当時最年少で同合唱団指揮者に就任し、現在世界的な指揮者として活躍する秦野出身の山田和樹氏が初出演した。その後もたびたび指揮やプロデュースを務め、地域の音楽文化振興だけでなく世界水準の質の高い演奏に触れられる機会にもなっている。

33回目となる今回も「第九」をメインに、2009年にNewsweek Japan誌で「世界が尊敬する日本人100人」に選ばれた2013年に第12回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞した指揮者・三ツ橋敬子氏と、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団が招致される。

が、たつた3発の銃弾で散ってしまふ。正義とは？法律とは？と思春期の多感な価値観はガラガラと崩れ、自分は何を一生かけてやるべきなのかと悩みました。その中でラビン氏と夫人と、音楽で心が通じたあの感覚がやはり忘れられず、仕事にしたいと決心することになったのです。

——最後に当日来館されるお客様へのメッセージをお願いします。

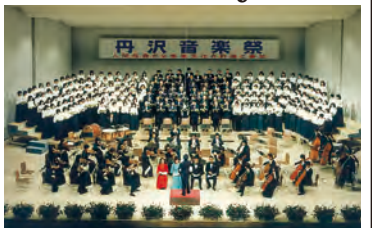
——この日の場所ではない一期一会の音楽の時間を、皆さまと過ごせますことを楽しみにしています。ベートーヴェンの壮大なメッセージを全身全霊で演奏しますので、どうぞ会場に足を運んで下さい！

## 音楽には人と人をつなぐ力がある



風の吊り橋そばの丹沢讃歌の碑

### History



1986年4月13日に開催された「第3回丹沢音楽祭」の様子。文化会館に残されていた写真資料の中で最も古いもの。演奏曲目は、「丹沢讃歌」「ベートーヴェン ピアノ協奏曲 第5番 皇帝」「モーツァルト 冠ミサ曲 八長調 k.v.317」だった。



本番へ向け練習も佳境！  
第33回丹沢音楽祭合唱団  
2月26日、舞台に立つのは約130人の市民合唱団。昨年10月から2回の練習に加え、初心者も実行委員会による特別練習にも参加し準備を整えている。秦野の第九を成功させよう、歌声を丹沢の山々へ、そして世界に平和の歌声を響かせようという気概と喜意に満ちた合唱団

## 丹沢秦野で脈々と受け継がれる市民参加型の音楽祭

### 第33回 丹沢音楽祭

プログラム ▶ 森一步作詞・加藤正二作曲「丹沢讃歌」▶ ベートーヴェン 交響曲第9番 ニ短調 作品125「合唱付」

指揮 三ツ橋敬子

2023 2.26 (日)

クアーズテック秦野 大ホール  
カルチャーホール

開演 14:00 全席自由

チケット発売中

0463・81・1211

※未就学児の入場はご遠慮下さい。



管弦楽 東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団